

小 学 校

平成 31 年度 (2019 年度)

教育研究員研究報告書

国 語

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	1
III	研究仮説	4
IV	研究構想図	4
V	研究の方法と内容	
	1 基礎研究	5
	2 調査研究	5
	3 検証授業	
	低学年分科会	7
	中学年分科会	10
	高学年分科会	13
VI	研究の成果と課題	16

研究主題

自分の考えを明確にし、書き表し方を工夫する指導法の在り方

I 研究主題設定の理由

「平成30年度全国学力・学習状況調査 報告書」(文部科学省)(以下、「全国学力調査」と表記。)によれば、「目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くことができるかどうかをみる」設問(小学校国語「書くこと」)において、東京都の平均正答率は14.4%、東京都の無解答率は3.8%であった。また、「平成30年度児童・生徒の学力向上を図るための調査 報告書」(東京都教育委員会)(以下、「都学力調査」と表記。)によれば、「目的や意図に応じて書きたいことが適切に伝わるように書くことができるかどうかをみる」設問(小学校国語「書くこと」)においては、東京都の平均正答率は40.4%、東京都の無解答率は2.1%であった。どちらの調査結果からも、児童は、平成29年3月に告示された小学校学習指導要領(以下、「小学校学習指導要領」と表記。)に示された「B 書くこと(1)ウ」(考えの形成、記述)の指導事項に課題があると考えた。

そこで本研究では、所属校において、所属の教員と児童を対象に、「書くこと」に関する意識調査(以下、「意識調査」と表記。)を行い、「書くこと」の学習における教員の指導の実態と児童の学びの実態について明らかにすることにした。「意識調査」(教員対象)の結果によれば、「書くこと」の指導において、「指導することが難しいと感じることはありますか。」という質問項目について、「よくある」、「ある」と回答した教員の割合は、全体の96.0%であった。さらに、「よくある」、「ある」と回答した教員に対して、「書くこと」の領域を構成する学習過程の中で、特に難しさを感じる学習過程について質問したところ、「考えの形成、記述」と回答した教員の割合は、全体の54.8%であり、最も多いことが分かった。このことから、「全国学力調査」と「都学力調査」から明らかになった児童の課題と教員の指導の実態とが一致していることが分かった。一方、「意識調査」(児童対象)の結果によれば、「書くこと」の学習で、「自分の考えや思いを書けることができますか。」という質問項目について、「よくできる」、「できる」と回答した児童は、全体の96.0%であった。また、「『書くこと』の学習で、『書き方が分かった』と思うことはありますか。」という質問項目について、「よくある」、「ある」と回答した児童の割合は、全体の79.7%であった。このことにより、「書くこと」の学習において、児童の意識と教員の意識とは隔たりがあると捉えることができると考えた。

以上のことを踏まえて、小学校学習指導要領の「B 書くこと(1)ウ」(考えの形成、記述)の指導事項に研究の重点を置き、研究主題を「自分の考えを明確にし、書き表し方を工夫する指導法の在り方」として研究を進めることとした。

II 研究の視点

自分の考えを明確にし、書き表し方を工夫する力を高めることが本研究の目的である。本研究において「書き表し方を工夫する」とは、自分の考えを伝えるためにどのような言葉を

用いるか（文末表現、敬体か常体か等を含む。）、「語や文及び段落の続き方やつながりをどのように表現するか、といったことなどに注意して記述の仕方を工夫することであるとした。以上を踏まえ、本研究では、次の三つの視点から研究主題に迫ることとした。

1 身に付けさせたい力の育成に適した、児童にとって学ぶ必然性のある言語活動の設定

(1) 児童にとって学ぶ必然性のある言語活動の設定

「書く」ためには、児童が書くことの目的意識や相手意識を明確にもつ必要がある。また、単元全体を通した言語活動や書くことの題材が、児童にとって学びの必然性を生み、児童が自分の思いや考えを表現したいと思うような内容にすることが大切である。そのためには、単元で身に付けさせたい力の育成に最も適した言語活動を設定することが必要である。そこで、本研究では、小学校学習指導要領の「B 書くこと」の(1)に示された指導事項及び「(2)ア」に示された言語活動例を基に、表1のとおり言語活動を設定することとした。

表1

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
指導事項	ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。	ウ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。	ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。
言語活動例	ア 身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動	ア 調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動	ア 事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動
本研究の言語活動	観察したことを記録する文章を書き、家族に紹介する活動	調べたことを報告する文章を書き、友達に伝える活動	意見を述べる文章を書き、地域の人たちに伝える活動

(2) 身に付けさせたい力を明確にした単元の「学習計画表」の作成

身に付けさせたい力を育成するためには、設定した言語活動を通して、どのような力が身に付けばよいのかを教員も児童も理解して学習に取り組む必要がある。そこで、本研究では、単元の学習計画を児童と共に考え、どのような力が身に付けばよいのかを明記するとともに、児童自身が自己評価も行える「学習計画表」を作成した。「学習計画表」を活用することで、児童はより一層、書くことの身に付ける力を意識しながら、学習に取り組むことができるものと考えられる。

2 書く事柄を整理するための手だての工夫

自分の考えを明確にさせるためには、書く事柄を整理させることが大切である。そこで、本研究では、各学年の児童の実態に応じて、表2のとおり、児童が書く事柄を整理することができるような手だてを講じた。

表2

学年	整理するための手だて	ねらい
第1・2学年	一文カード つなぎカード まとめシート	事柄の順序に沿って簡単な構成を考え、自分の考えを明確にすること。
第3・4学年	文章構成表 付箋紙	書く内容のまとめりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりしながら、自分の考えを明確にすること。
第5・6学年	文章構成表 付箋紙	筋道の通った文章となるように文章の構成や展開を考え、自分の考えを明確にすること。

第1学年及び第2学年では、「一文カード」、「つなぎカード」、「まとめシート」を用いて、事柄の順序に沿って簡単な文章を構成しながら、自分の伝えたいことを明確にすることである。第3学年及び第4学年では、「文章構成表」と「付箋紙」を用いて、内容のまとめりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして文章を構成しながら、自分の考えを明確にすることである。第5学年及び第6学年では、「文章構成表」と「付箋紙」を用いて、筋道の通った文章となるように文章の構成や展開を考えながら、自分の考えを明確にすることである。

3 書き表し方を考えるためのモデルの提示

(1) 書き表し方を考えるためのモデルとなる文章の提示

書き表し方を工夫させるためには、「書き表し方を工夫した文章」とはどのような文章であるのかを児童に理解させる必要がある。そこで、書く文章の特徴を押さえ、その文章に必要な表現方法を分析し、書き表し方を考えさせるためのモデルとなる文章を示すこととした。モデルとなる文章を示すことで、児童は書き表し方の具体的な文や文章をイメージして書くことができるようになると考えられる。

(2) 書き表し方を考えるための「学習の言葉」の作成

書き表し方を考えさせるために、設定した言語活動と単元で身に付ける指導事項を照らし合わせ、文章の種類に応じてどのような言葉が必要なのかを分析し、「学習の言葉」として提示することとした。「学習の言葉」を用いることで、自分の伝えたいことを明確にして書くことができるということを示し、「学習の言葉」を教室内に掲示したり、学習の手引きとして児童にファイリングさせたりして、「学習の言葉」を常に意識させ、いつでも活用できるようにした。

Ⅲ 研究仮説

本研究では、前述した三つの手だてを講じることで、児童は自分の考えを明確にし、書き表し方を工夫する力を高めることができると考え、以下の研究仮説を設定した。

＜研究仮説＞

身に付けさせたい力の育成に適した言語活動を設定し、書く事柄の整理や書き表し方の指導の充実を図れば、児童は自分の考えを明確にもち、書き表し方を工夫する力を高めることができるであろう。

Ⅳ 研究構想図



V 研究の方法と内容

1 基礎研究

「全国学力調査」及び「都学力調査」、平成 29 年 3 月に告示された「小学校学習指導要領解説国語編」等を参考にして、「B 書くこと」に関連付けられる力を分析した。

2 調査研究

「意識調査」の結果を分析することによって、「書くこと」の指導における課題等の実態を把握した。〔平成 31 年度教育研究員（小学校国語）の所属校 16 校の教員 272 人、所属校の抽出児童（第 1 学年～第 6 学年）1,402 人に実施：実施期間令和元年 9 月〕

(1) 教員を対象とした「書くこと」の指導に関する意識調査

質問 1 「書くこと」の指導で難しいと感じることはありますか。

「よくある」、「ある」と回答した割合は、図 1 のとおり、全体の 96.0%であった。さらに、「よくある」、「ある」と回答した教員に対して、「特に、難しいと感じる学習過程はありますか。」という質問をしたところ、表 3 のとおり、「考えの形成、記述」と回答した割合が全体の 54.8%であり、他の学習過程と比べて最も割合が高いことが明らかになった。このことから、9 割を超える教員が、「書くことの指導が難しい」と感じており、その中でも、『考えの形成、記述』の学習過程に難しさを感じている」ということが分かった。

表 3

学習過程	割合 (%)
ア 題材の設定、情報の収集、内容の検討	28.7%
イ 構成の検討	47.9%
ウ 考えの形成、記述	54.8%
エ 推敲	51.0%
オ 共有	20.7%

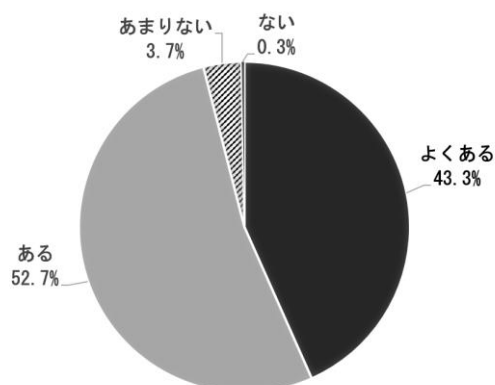


図 1

質問 2 「書くこと」の指導において、児童は身に付けさせたい力を意識して学習し、学んだことを実感できていると思いますか。

「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、図 2 のとおり、全体の 28.6%であった。一方、「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」と回答した割合は、全体の 71.4%であった。このことから、多くの教員は、「書くこと」の指導において、「児童は身に付けさせたい力を意識して学習し、学んだことを実感することができていない」と捉えていることが分かった。

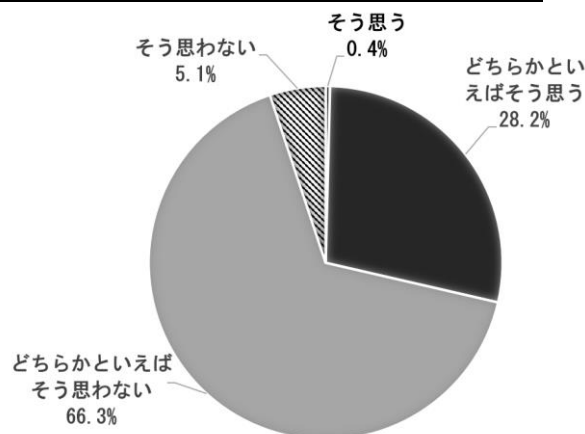


図 2

(2) 児童を対象とした「書くこと」の学習に関する意識調査

質問1「書くこと」の学習で自分の思いや考えを書けることができますか。

「よくできる」、「できる」と回答した割合は、図3のとおり、全体の79.7%であった。一方、「あまりできない」、「できない」と回答した割合は、全体の20.3%であった。このことから、多くの児童は、書くことの学習において、「自分の思いや考えを書けることができる」と自覚していることが分かった。

質問2「書くこと」の学習で「文章の書き方が分かった」と思うことはありますか。

「よくある」、「ある」と回答した割合は、図4のとおり、全体の81.4%であった。また、「あまりない」、「ない」と回答をした割合は、全体の18.6%であり、多くの児童は、「書くこと」の学習において、「『文章の書き方が分かった』と、学びを実感している」ことが分かった。

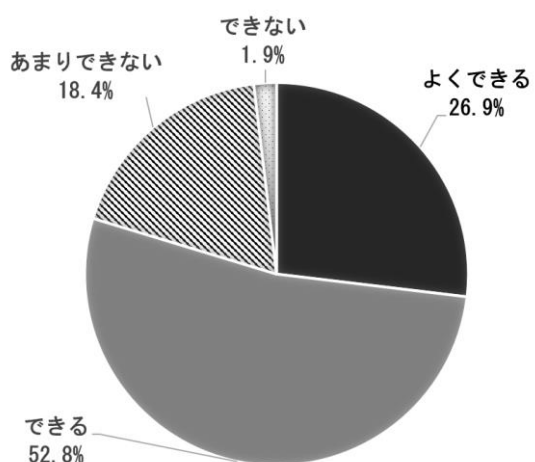


図3

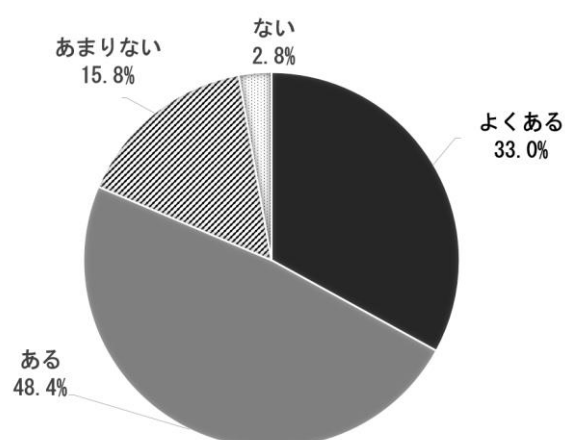


図4

(3) 意識調査のまとめ

教員と児童の意識調査の結果から、図5のとおり、「書くこと」の学習活動において、教員と児童との意識には隔たりがあることが明らかになった。

「書くこと」の力を高めるためには、教員が自信をもって「書くこと」の指導を行うことや児童がどのような力を身に付ければよいのかを自覚して学習に取り組むこと等が必要であることが考えられる。

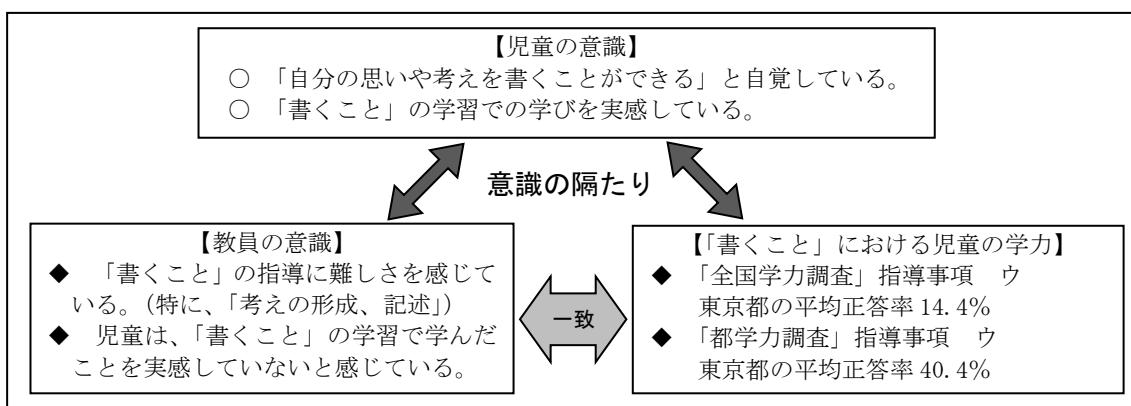


図5

1 単元名 おうちの人に、おせわをしているうさぎのことをしょうかいしよう

2 単元の目標

- 世話をしているうさぎについて、家族に紹介したいという思いをもち、観察したことを記録する文章を書くことができる。
- 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。
- 助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「 」）の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。

3 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	書く能力	言語についての 知識・理解・技能
・世話をしているうさぎについて、家族に紹介したいという思いをもち、観察したことを記録する文章を書こうとしている。	・語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。	・助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「 」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。

4 研究主題に迫るための手だて

(1) 身に付けさせたい力の育成に適した、児童にとって学ぶ必然性のある言語活動の設定

ア 児童にとって学ぶ必然性のある言語活動の設定

本単元には、児童が学校生活の中で世話をしているうさぎを観察して、見付けたことや気付いたことを記録する文章に書き表し、その文章を家族に伝えることを目的として、「おうちの人に、おせわをしているうさぎのことをしょうかいしよう」という言語活動を設定した。見付けたことや気付いたことを正しく伝える文章にするためには、語と語、文と文との続き方に気を付けながら、うさぎの様子について書き表す力が必要である。このようなことから、「おうちの人に、おせわをしているうさぎのことをしらせよう」という学習活動は、本単元で最も身に付けさせたい力である「B 書くこと」の指導事項(1) Bウ「語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること」に迫ることができる適切な言語活動であると考えた。

イ 単元を通して身に付けさせたい力を明確にした「学習計画表」の作成

身に付けさせたい力と学習計画が一体化した「学習計画表」を作成し、児童がいつでも身に付けたい力と学習内容を確認することができるようにする。児童は単元全体を通して、また、一単位時間の学習でどのような書くことの力を身に付けるのかを明確にして学習に

臨むことができると考えた。一単位時間の学習の終わりに、学習計画に沿った「具体的な振り返り」の時間を設定する。本時のめあてとなる書くことの具体的な学びを確かめることで、どのような力が身に付いたのか、また、どのようなことに苦手意識があるのかを意図的に実感できるようにする。「学びの確かめ」から「具体的な振り返り」という流れで振り返ることで、児童が自分自身の変容や成長に気付くことができるようにする。

(2) 書く事柄を整理するための手だての工夫

はじめに、観察したうさぎの絵を描き、見付けたことや気付いたことを、短い言葉で絵に書き込む。次に、見付けたことや気付いたことを「…は、～です。」の句型を示して、「一文カード」に表し、書いた「一文カード」で仲間分けをする。その後、主語が同じで、述語が並列や添加の関係になる事柄を「と」や「て」を用いて、「つなぎカード」で一文にまとめるようにする。まとめた内容は、「まとめシート」を活用して並べ替え、自分が伝えたい順序にする。このような手順を踏むことで、児童は、事柄の順序に沿って簡単な構成を考え、自分の伝えたいことを明確にすることができると考えられる。

(3) 書き表し方を考えるためのモデルの提示

ア 書き表し方を考えるためのモデルとなる文章の提示

書き表し方を考えさせるために、ハムスターを題材として教師が作成したモデルとなる文章を提示する。モデルとなる文章を児童に読み聞かせ、ハムスターがどのような様子であるかを話し合わせる。さらに、教師がハムスターを観察して描いた絵を提示し、どのようにして記録する文章を書いていったのかを知らせる。そうすることで、児童は記録する文章をどのように書き表せばよいかという書き方の工夫のイメージをもつことができると考えられる。

イ 書き表し方を考えるための「学習の言葉」の作成

事柄の順序に沿いながら、文や文章の中で、語と語や文と文との続き方を考えて記述することで、自分の考えを一層明確にすることができる。そこで、観察して見付けたことや気付いたことについて、語と語とのつなぎ方を示した「学習の言葉」を示し、一文にする方法を指導する。具体的には「と」を用いて「けは、しろ『と』ちゃいろです。」や、「て」を用いて「めは、まるく『て』とてもかわいいです。」など、書き表し方を具体的に示すことである。そうすることで、どのように「学習の言葉」を活用すればよいかを考える手だてとする。

5 学習指導計画（10時間扱い）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
一	1	○世話をしているうさぎについて、家族に紹介する文章を書くことを知る。 ○学習課題を確認し、学習計画を立てる。	・教師が作成したモデルとなる文章を提示し、学習の目的やゴールを捉えさせる。	・世話をしているうさぎについて、家族に紹介したいという思いをもち、観察したことを記録する文章を書くようにしている。 【関】 （学習計画表）
二	2	○うさぎの様子や特徴をよく見て、学習シートにうさぎの絵を描く。	・うさぎを実際に見たり、触ったりしながら、詳しく描くように促す。	・語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 【書】 （学習シート）
	3	○描いた絵を基に、観察して見付けたことや気付いたことを書く。	・見付けたことや気付いたことについて、短い言葉で書かせる。	・助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。 【言】 （学習シート）
	4	○それぞれの特徴について、一文で短冊に書く。	・「…は、～です。」という文型を示す。	
	5	○内容のまとまりを作り、一文と一文とをつなぐ。	・語と語とのつなぎ方を示し、同じ事柄を一文にまとめさせる。	
	6	○「まとまりシート」で並べ替え、内容のまとまりを作る。	・まとまりが分かるように並べ替えさせる。	
	7	○考えた順序に沿って記録する文章を書く。	・下書きを読み合い、語と語がつながっているかを確認させる。	
	8	○記録する文章の下書きを基に、清書する。	・文章を読み返し、正しく書くことができているかを確認し、必要に応じて修正をするよう促す。	
三	9	○観察したことを記録した文章で、家族にうさぎのことを紹介する。	・学習を振り返って、学んだことや次に挑戦してみたいことなどを記述することを伝える。	
	10	○単元を振り返る。		

1 単元名 自分の知りたいことを調べて、レポートで友達に伝えよう

2 単元の目標

- 書くことの目的意識をもち、進んで調べたことを報告する文章を書くことができる。
- 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。
- 引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うことができる。

3 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	書く能力	言語についての 知識・理解・技能
・書くことの目的意識をもち、進んで調べたことを報告する文章を書こうとしている。	・自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。	・表現したり理解したりするために必要な語句について、辞書を利用して調べている。

4 研究主題に迫るための手だて

- (1) 身に付けさせたい力の育成に適した、児童にとって学ぶ必然性のある言語活動の設定
- ア 児童にとって学ぶ必然性のある言語活動の設定

本単元には、生活の中でもっと詳しく知りたいと思うことについて自分で調べ、調べたことを友達に伝えることを目的とし、「自分の知りたいことを本で調べて、友達にレポートで伝えよう」という言語活動を設定した。ここでの「レポート」とは、自分自身で調べたことや取材をして分かったことを報告する文章のことである。そうした文章を書く際には、報告する文章の特徴に基づいて書くこととなる。例えば、調査を報告する文章では、調査の目的や方法、調査の結果とそこから考えたことなどを明確に書くことになる。そのため、本単元で最も身に付けさせたい力である「B 書くこと」の指導事項(1)ウ「自分の考えとそれを支える理由と事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること」に迫ることができる適切な言語活動であると考えた。

- イ 単元を通して身に付けさせたい力を明確にした「学習計画表」の作成

身に付けさせたい力と学習計画が一体化した「学習計画表」を作成し、児童がいつでも身に付けたい力と学習内容を確認することができるようにする。また、学習計画に沿って、書くことの具体的な学びを確かめる「学習のまとめ」の時間を活動の終わりに設定し、振り返りの視点を明記した振り返りシートに基づき、記述によって学習を振り返らせるようにする。「学習のまとめ」から「具体的な振り返り」という流れで振り返ることで、書くことの力が身に付いたことを実感したり、新たな課題意識をもったりし、自分自身をメタ認

知して、次時への学習の見通しをもつことができるようになると考えられる。

(2) 書く事柄を整理するための手だての工夫

「文章構成表」を作成し、「初めに」、「分かったこと」、「終わりに」という書く内容のまとまりを児童が意識することができるようにする。調べて分かったことは、付箋紙にメモをし、自分の考えを整理しながら文章の構成を考えることができるようにする。付箋紙を活用することで、集めた情報を取捨選択したり、書く順序の調整をしたりすることができる。そうすることで、児童が自分の考えを整理し、「何を伝えたいのか」、「どのように伝えるのか」といった自分の考えを明確にすることができる。また、「文章構成表」を作成するために、教師が作成したモデルとなる「文章構成表」も示すようにすることで、書くことに苦手意識がある児童にとっても有効な手だてになると考えられる。

(3) 書き表し方を考えるためのモデルの提示

ア 書き表し方を考えるためのモデルとなる文章の提示

書き表し方を考えさせるために、「初めに」、「分かったこと」、「終わりに」という構成で書かれたモデルとなる文章を提示する。「初めに」には、調べたいこと（問い）、調べることにした理由やきっかけ、調べる方法を示す。「分かったこと」には、調べた内容とその結果について項目ごとに分けて示す。「終わりに」には、調べたいこと（問い）に対する答えと自分自身が考えたことを示すようにする。モデルとなる文章において、「学習の言葉」を明確に示すことで、児童は書き表し方の具体的な表現方法を理解し、報告する文章を書くことができると考えられる。

イ 書き表し方を考えるための「学習の言葉」の作成

「文章構成表」を基に児童が報告する文章を書く際には、事例を挙げるときなど、調べたことを報告するときに使わせたい言葉や表現を示した「学習の言葉」を活用させるようにする。具体的には、「～には、～と書かれていた。」、「～によると、～だそうだ。」、「例えば、～ということが考えられる。」など、書き表し方を工夫するための表現方法を示す。必要な「学習の言葉」を付箋紙にメモをし、「文章構成表」に付け加えていくようにする。そうすることで、自分の考えとそれを支える理由や事例といった関係を明確にし、より相手に伝わりやすい文章にすることができる。また、報告する文章を書く際は、モデルとなる文章とモデルとなる「文章構成表」を参考にしながら、どのように「学習の言葉」を活用すればよいかを考える手だてとする。

5 学習指導計画（12時間扱い）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
一	1	○モデルとなる文章を基に、学習の目的を知る。 ○学習計画を立て、学習の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が作成したモデルとなる文章を提示し、学習の目的を捉えさせる。 ・児童と学習計画を考え、学習の見通しをもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書くことの目的意識をもち、進んで調べたことを報告する文章を書こうとしている。 <p>【関】（学習計画表）</p>
二	2 3 4 5 6 7 8 9 10	○書く内容を決める。 ○学校図書館で、課題に合う本を探し、調べた情報を記録する。 ○調べた情報を整理し、文章の構成を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・課題と問いの案を考え、簡条書きにさせる。 ・調べた情報を整理しやすいように、付箋紙に書き出すよう促す。 ・調べた本の題名、筆署名、出版社名、発行された年はメモをするよう促す。 ・「文章構成表」で、文章の構成を考えさせる。 ・付箋紙で色分けをすることで、事柄の関係を捉えやすくさせる。 ・「分かったこと」では、事例が書かれているかを確認させる。 ・問いと問いに対する答えの整合性を確認させる。 ・事例を挙げるための文章の表現方法などを確認させる。 ・報告する文を読み返し、必要に応じて修正させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現したり理解したりするために必要な語句について、辞書を利用して調べている。 <p>【言】（学習シート）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。 <p>【書】（学習シート）</p>
三	11 12	○報告する文章を友達と読み合い、工夫しているところや感想を伝え合う。 ○単元を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・書き表し方の工夫に着目し、感想を交流させる。 ・振り返りシートを基に、報告する文章を書く学習で身に付けた力を振り返らせる。 	

1 単元名 意見を聞き合って自分の考えを深め、意見文を書いて地域の人に伝えよう

2 単元の目標

- 自分の考えたことを伝えたいという思いをもち、説得力のある意見を述べる文章を書こうとすることができる。
- 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたり、事実と感想、意見とを区別して書いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。
- 思考に関わる語句の量を増やし、文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすることができる。

3 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	書く能力	言語についての 知識・理解・技能
・自分の考えたことを伝えたいという思いをもち、説得力のある意見を述べる文章を書こうとしている。	・目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたり、事実と感想、意見とを区別して書いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。	・思考に関わる語句の量を増やし、文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。

4 研究主題に迫るための手だて

(1) 身に付けさせたい力の育成に適した、児童にとって学ぶ必然性のある言語活動の設定

ア 児童にとって学ぶ必然性のある言語活動の設定

本単元には、よりよい未来について、互いの意見を聞き合って自分の考えを深め、地域の人に意見を述べる文章で伝えることを目的として、「意見を聞き合って自分の考えを深め、意見文を書いて地域の人に伝えよう」という言語活動を設定した。ここでの「意見文」とは、事実を客観的に書くとともに、理由や事例を明確にしなが、筋道を立てて自分の意見を述べる文章のことである。そのため、「意見を聞き合って自分の考えを深め、意見を述べる文章を書いて地域の人に伝えよう」という学習活動は、本単元で最も身に付けさせたい力である「B 書くこと」の指導事項(1)ウ「目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と意見、感想、意見とを区別して書いたりするなど自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」に迫ることができる適切な言語活動であると考えた。

イ 単元を通して身に付けさせたい力を明確にした「学習計画表」の作成

身に付けさせたい力と学習計画が一体化した「学習計画表」を作成し、児童がいつでも

身に付けたい力と学習内容を確認することができるようにする。「学習計画表」に学習の振り返りの記述欄を設けることで、児童が自分の学びの過程を意識したり実感したりすることができるようにする。そうすることで、児童が常に身に付けさせたい力を意識しながら学習を進めていくことができると考えられる。さらに、単元末に「学習計画表」を活用して単元全体の振り返りを行う時間を設定する。毎時間の振り返りだけではなく、単元全体の振り返りを行うことで、児童自身に成就感をもたせることができるようにするとともに、教師が児童の学びを意図的に価値付けることで、身に付けた力が育ったことを実感させたり、次の学習へ生かそうとしたりすることができるようにする。

(2) 書く事柄を整理するための手だての工夫

文章を構成する学習場面で、「自分の意見」、「根拠となる出来事や事実」、「予想される反論と、それに対する自分の考え」、「自分の意見とまとめ」に分けた「文章構成表」を作成する。色分けをした付箋紙に自分の考えを書かせ、その後、教師が用意した「文章構成表」のモデルを基に、効果的な構成を吟味させる。その際、付箋紙を並べ替えさせながら「文章構成表」を作成できるようにする。付箋紙によって色分けをすることで、児童は、意見と事実を区別し、視覚的に伝えたいことや考えが整理され、自分の考えを明確にすることができると考えられる。

(3) 書き表し方を考えるためのモデルの提示

ア 書き表し方を考えるためのモデルとなる文章の提示

書き表し方を考えるために、「初め」、「中」、「終わり」という構成で書かれたモデルとなる文章を提示する。「初め」には、自分の意見を示す。「中」には、根拠となる出来事や資料、自分の体験等を示すことに加え、異なる考え方や予想される反論とそれに対する自分の考えを示す。「終わり」には、改めて自分の意見を示すようにする。モデルとなる文章を示すことで、児童は、どのように書き表せばよいかという具体的な考えをもたせる。

イ 書き表し方を考えるための「学習の言葉」の作成

意見を述べる文章を書く際には、自分の考えを明確にし、文章に説得力をもたせるための思考に関わる語句を示した「学習の言葉」を活用させるようにする。具体的には、「～によると、～ということである。」(引用・具体例)、「なぜなら、～だからである。」(主張)、「～と～を比べると、～である。」(比較)、「しかし、～～と考えることができる。」(反論)などの表現方法である。「学習の言葉」を示すことで、児童は自分の考えを表現するための語句を文章の中で用いて、読み手に自分の主張が伝わるような意見を述べる文章が書くことができるようになると考えられる。

5 学習指導計画（11時間扱い）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準(評価方法)
一	1	○モデルとなる文章から、学習活動の見通しをもち、学習計画を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童と共に「学習計画表」を作成し、単元で身に付けさせたい力を明確にする。 ・意見を述べる文章の大まかな特徴を押さえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えたことを伝えたいという思いをもち、説得力のある意見を述べる文章を書こうとしている。 <p>【関】(学習計画表)</p>
二	2	○地域のよい点や課題点を出し合い、分類したり整理したりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・「分類シート」と付箋紙を活用し、考えを整理しやすいようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたり、事実と感想、意見とを区別して書いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 <p>【書】(原稿用紙)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思考に関わる語句の量を増やし、文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。 <p>【言】(原稿用紙)</p>
	3	○取材を基に、自分の主張をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・取材を根拠にして、自分の主張をまとめさせる。 	
	4	○「文章構成表」で構成を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が「文章構成表」を作成する手本を見せ、参考にさせる。 	
	5	○「文章構成表」を読み合い、助言し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・助言の観点を示し、必要に応じて修正させる。 	
	6	○地域の未来について	<ul style="list-style-type: none"> ・モデルとなる文章を提示し、意見を述べる文章の書き方を理解させる。 ・思考に関わる語句を記述の参考にさせる。 	
	7	・の意見を述べる文章を書く。		
	8	○推敲する。 ○意見を述べる文章を読み、助言し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・推敲の観点を示し、必要に応じて修正させる。 	
	9	○文章の下書きを基に、清書する。	<ul style="list-style-type: none"> ・正しく書けているかを確認するよう促す。 	
	10	○意見を述べる文章を読み合い、互いに感想を伝え合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の記事を述べる文章のよさに着目させる。 	
三	課外 11	○地域の人に意見を述べる文章を届ける。 ○単元を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習計画表」や友達からの感想を基に、身に付けた力について振り返らせる。 	

VI 研究の成果と課題

1 研究の成果

- (1) 身に付けさせたい力の育成に適した、児童にとって学ぶ必然性のある言語活動の設定
身に付けさせたい力の育成に適した、児童の学びの必然性を生む言語活動を設定することで、児童は書くことの目的意識をもつとともに、「書き表し方を工夫する」という単元のためあてを常に意識して学習する姿が見られた。めあてを常に意識させるためには、振り返り表と一体化した「学習計画表」が効果的であった。一単位時間ごとにめあてに即した振り返りを行うことで、「書くこと」の学習において、どのような力が身に付いたのかを実感したり、どのようなことが苦手であるのかを理解したりすることができるからである。
- (2) 書く事柄を整理するための手だての工夫
設定した言語活動の書く文章の種類に応じて、「まとめシート」や「文章構成表」等を活用することで、「わたしがつたえたいことをカードでじゅんばんにならべることができました。」(第1学年児童の振り返りの記述)や「根きよとなる文章を構成表にまとめたことで、自分の考えていることが整理されて、書きたいことがはっきりとしてきました。」(第6学年児童の振り返りの記述)などと、児童は集めた情報を自分なりに整理しながら、自分が伝えたいことを明確にする姿が見られた。
- (3) 書き表し方を考えるためのモデルの提示
「学習の言葉」を意図的に使用したモデルとなる文章を示したことで、児童は書き表し方を工夫することの具体的なイメージをもちながら文章を書くことができた。「『学習の言葉』を使うと、レポートの内容がとても分かりやすくなりました。」(第4学年児童の振り返りの記述)や「モデルの文章を参考にして『学習の言葉』を使ったら、自分が伝えたいことの説得力が高まりました。」(第6学年児童の振り返りの記述)などと、どのような言葉を使い、どのように表現すればよりよい文章になるのかを実感している姿が見られた。

2 研究の課題

- (1) 「書くこと」の単元における身に付けさせたい力の焦点化と言語活動の設定
「書くこと」の指導においては、指導事項のアからオまでの全てが関連付いているため、指導する内容も幅が広い。そのため、ウの指導事項に沿って文章を書くことができない児童は、重点的に身に付けさせたい力に焦点化した学習活動になっていなかったためだと考えられる。このことから、単元で重点とすべき指導事項を明確に示し、教員も児童もどのような力が身に付けばよいのかという学習のゴールを常に意識していくことが大切だと考えられる。また、設定する言語活動も、各学校の教育活動の特色や児童の実態に応じてよく吟味し、重点とする指導事項に照らし合わせて検討していく必要がある。
- (2) 書き表し方を工夫するための語彙の獲得
モデルとなる文章や「学習の言葉」を示しても、書き表し方を工夫することができなかった児童は、語彙の不足が原因であったと考えられる。語彙力を豊かにするためには、単元の中で友達が書いた文章を読む活動を計画的に行ったり、文章を構成する過程で個別に支援をしたり、さらには、単元以外でモデルとなり得る様々な文章に触れたりする機会を設定することが大切だと考える。

平成 31 年度(2019 年度) 教育研究員名簿

小学校・国語

<低学年分科会>

学 校 名	職 名	氏 名
新 宿 区 立 花 園 小 学 校	主任教諭	松 井 里 絵
品 川 区 立 京 陽 小 学 校	主任教諭	上 野 美 智 恵
世 田 谷 区 立 池 尻 小 学 校	主任教諭	橋 本 彩
江 戸 川 区 立 第 五 葛 西 小 学 校	主任教諭	○飯 田 敏 明
東 村 山 市 立 八 坂 小 学 校	主任教諭	西 岡 朋 美

<中学年分科会>

学 校 名	職 名	氏 名
文 京 区 立 青 柳 小 学 校	主任教諭	西 村 宗 祐
目 黒 区 立 中 根 小 学 校	主幹教諭	◎市 川 明 日 香
北 区 立 王 子 小 学 校	主任教諭	武 田 佳 寿 実
板 橋 区 立 北 野 小 学 校	主任教諭	吉 田 愛 理
小 平 市 立 小 平 第 十 小 学 校	主任教諭	岡 野 幸 一
西 東 京 市 立 栄 小 学 校	主任教諭	○嶋 津 絵 里 生

<高学年分科会>

学 校 名	職 名	氏 名
台 東 区 立 上 野 小 学 校	主任教諭	武 井 二 郎
澁 谷 区 立 幡 代 小 学 校	主任教諭	長 さくら
小 平 市 立 小 平 第 五 小 学 校	主任教諭	嵩 原 佐 知 子
東 村 山 市 立 久 米 川 東 小 学 校	主任教諭	○栗 子 綾
あ き る 野 市 立 草 花 小 学 校	主任教諭	仲 栄 真 由 衣

◎全体世話人 ○分科会世話人

[担当] 東京都教育庁指導部義務教育指導課
指導主事 宮西 真

平成 31 年度 (2019 年度)
教育研究員研究報告書
小学校・国語

令和 2 年 3 月

編 集 東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320-6849